



Vol 7

横浜市戸塚区民文化センター  
さくらプラザ 情報誌



©Wataru Nishida

# SAKURA



インタビュー

鈴木 理恵子／水永 牧子

エッセイ 柳家小せん

筆の向くま

戸塚出身の小せん師匠が、扇子をペンに持ち替えて

レポート 駆が駆ける

戸塚の浮世絵に描かれた場所へ

実際に来て来ました!編



SAKURA  
PLAZA



# 鈴木 理恵子

真に上質な室内楽は、真に一流の  
音楽家たちによってのみ創出されます



著名な作曲家たちからの信頼も厚く、多くの作品の初演に指名を受けている名ヴァイオリニスト鈴木理恵子さんが、さくらプラザで開催する『室内楽シリーズ2014～2020』。時代も国境もジャンルも越えた素晴らしい音楽の魅力から室内楽シリーズへの思いをうかがいました。

—ヴァイオリンを始めたきっかけは?

兄がヴァイオリンを習っていた時期があつて、小さいヴァイオリンが家にありました。それで、その形・曲線が素敵に思えたのではないかと思うのですが、興味を持っていたという記憶があります。3～4才の頃だと思いますが、習っていたわけではなくて、楽器を触っておもちゃのように遊んでいました。習いはじめたのは6才からです。今思うといろいろ興味の多い子供で、絵を習ったりバレエを習ったりもしていましたが、母親から「やりたいものを選びなさい」と言われ、ヴァイオリンが一番好きだったので、ヴァイオリンを選びました。とは言っても、子供のころはあまり熱心に練習しなかった時もありましたので、母に「そんなに練習しないならやめなさい」と叱られることもありましたが、なぜだかどうしてもやめたくなくて、ずっと続けてきました。

—プロを目指そうと思ったのは?

本当にプロになりたいと思ったのは実は遅くて、大学生の時です。室内楽をやるようになって、世界にはこんなに楽しいことがあるのかと知り、大学3年のころ、プロになりたいと決心しました。ヴァイオリンって1人だと一本のメロディですが、ピアノとの共演やカルテットなどの室内楽だと、共演者と呼応し合って重層的な音楽が生まれます。そこに大きな喜びを覚えました。

—普段はどのような練習をなさっていますか?

細かい部分をコツコツと練習する時もあれば、全体を俯瞰するような練習をする時もありますね。そして一番大切なのは集中して練習すること。そうしないと音程などが荒れて崩れてしまうので、とにかく集中してやるようにしています。

あと、私は楽器の練習と共に、演奏する作品の背景を知るために、色々な資料調べたり、さまざまな音楽を聴いたり、楽譜を見たりすることも大切にしています。そのことが演奏の際の解釈に反映されることも多いです。

—皆さん曲の解釈を深く考えいらっしゃると思いますが、理恵子さんはどのようにして作曲家の意図を汲み取っていらっしゃいますか?

これまで多くの作曲家の方とお仕事をしてきた経験ですと、作曲家の方は意外と、ほとんど演奏家に指示なさらないことが多いです。記譜に関して、これはこういう意味ですっていうことは、言葉の理解として言われることはあります。基本的に「自由に弾いて下さい。好きなように弾いて下さい」とおっしゃることが多いんですよ。

実はこれは今の作曲家も昔の作曲家も変わらなくて、その作品が完成した時点で作品

は作曲家の手を離れて、あとは好きなように弾いて下さいというパターンが多いのかなと思ったりもします。でも、その時代や作曲家によって、音楽の基本言語というものはあります。ベートーヴェンみたいに正確に演奏されることを求めて記譜する作曲家とか、マーラーのように細かく指示を書いている作曲家もいますけれど、それは時代を越えたいろんな人が演奏するときに、ある基本が崩れないようなサインみたいなものじゃないかと私は考えます。作曲家や作品が生まれた時代によって、ゆるがない基本の音楽言語をしっかりと踏まえたうえで、その基本の部分を越えた演奏者の感性が大きく関わる部分に関しては、それぞれの演奏者の解釈にゆだねられているのかなと思います。時代によても楽器によつても、テンポもフレージングも変遷するものですし。

音楽が生まれた時代についても、しっかりと考えたいと思います。例えば今は平和な世の中なので、戦乱の時代に書かれた作品を演奏するのではなく難しいと思うんですよね。当時の人々の苦しみというのは、平和な時代の中ではおいそれとは理解できないことだと思うので。そこを、想像して深く深く探していくかと思います。

このように、私が作品を解釈する時には、音楽の基本言語を踏まえ、音楽の時代背景を想像しながら、とにかく曲を掘り下げて掘り下げて、時間をかけて練り込むことが一番重要なんじゃないかなと思います。時間をかけて、ああでもないこうでもないと細かいことを組み立てて行ったときに、作曲家自身の見えない苦しみや、見えない希望に気付いたり、「ああ、作曲家はこのように考えたのかもしれないな」と思うことはありますね。

—ヴァイオリンを続けてよかったですと思われる瞬間とは?

ヴァイオリンが恵まれているなと思うのは、それぞれの時代に名曲がふんだんにあり、多くの名曲を演奏できるということです。名曲を演奏するのは幸せですね。

そしてその時の自分自身の思いがお客様に伝わると、それは本当に演奏家冥利に尽きますね。

—20年以上前から「東洋と西洋」というテーマを持って活動なされているとかがいましたが?

そうですね。私がプロとして活動を始めたころは、

時代の空気として、東洋の音楽と西洋の音楽は、ジャンルがはっきりと分かれていたような気がします。現代音楽とクラシックもはっきりと分かれていて、それに専門の演奏家がいらしたような気がします。ですので、一般的には西洋音楽が好きな方は東洋には目を向けないことが多い時代だったのではないかと思います。もちろん多角的な視野をお持ちの方も何人もいらっしゃったのですが。私自身は、さまざまな活動を通して、いつしか「ビヨンド・ザ・ボーダー(境界を越えて)」というコンセプトを強く意識するようになり、時代も国境もジャンルも関係なく、素晴らしいものは素晴らしいのだと思うようになりました。東洋でも西洋の影響を受けたものもあれば、西洋の中に東洋の影響を受けたものもある。例えばドビュッシーの作品には、ガムランや浮世絵といった東洋の美からインスピレーションを受けて書かれているのがたくさんあります。そういう観点で演奏活動をしていますと、たとえばあるオーケストラ作品のこの部分にはこの民族の音楽を使っているとか、こんなところにこの民族の旋律がたくさん使われているとか、そういうことも判るようになりました。このように音楽の多様性の奥深さを知ることは、私の演奏活動にとてもいい影響を与えてくれていると思います。

—さくらプラザで12月14日のリサイタルを皮切りに、いよいよ始まる鈴木理恵子室内楽シリーズについておうかがいします

プロを目指すきっかけとなった室内楽、その室内楽にもぴったりのホールのさくらプラザで、6年間



に渡って計12回のコンサートをさせていただけますことを大変光栄に思っています。  
基本的にはヴァイオリンとピアノの名曲がメインになります、フレンチ・コネクションとしてフォーレ、サン・サーンス、ラベル、フランスの名作のソナタ、ベートーヴェン・ソナタ全曲であるとか、ハープやギターとのデュオであったり無伴奏であったりピアノ五重奏などを考えております。

—最後に戸塚のお客様にひとことお願いします

12月14日は全12回シリーズの第一回目ということで、ベートーヴェンのクロイツェル・ソナタとモーツアルトの一番有名なホ短調のソナタをメインに、あとは皆様もよくご存じのヴァイオリンの名曲をお贈りしたいと思います。クロイツェル・ソナタという大曲はベートーヴェンのソナタの中でも一番ピアノとヴァイオリンが活躍するので、二人の丁々発止みたいなのが聴いていただければと、また、モーツアルトのソナタは本当にお祈りのようなきれいな曲で、皆様必ずどこかで聴かれているかだと思います。その他、楽器の特質を生かしたヴァイオリンならではの名曲を是非お聴きください。また、シリーズ第2回目として、来年2月15日にチャーチスト上村昇氏、ピアニスト若林顕氏とのトリオ・コンサートを開催します。どうぞお楽しみになさってください。

一本日は貴重なお話ありがとうございました

(於:さくらプラザ／聞き手:飯島幹雄)

- さくらプラザHPでは鈴木理恵子さんのコメント動画がご覧いただけます
- 公演の詳細はチラシ、さくらプラザHPをご覧ください



鈴木 理恵子（ヴァイオリン）  
Rieko SUZUKI, Violin

桐朋学園大学卒業後、23歳で新日本フィル副コンサートミストレスに就任。04年より14年2月まで、読売日本交響楽団の客員コンサートマスターを務めた。桐朋学園大学在学中は篠崎功子、インディアナ大学でJ. ギンゴールド、夏季セミナーなどでH. ジエリング、N. ミルシタイン、M. シュヴァルベの各氏に師事。97年からはソロを中心に活動。全国各地でのリサイタルの他、主要オーケストラとも多数共演。クラシックに留まらず「東洋と西洋」をテーマに独自の活動を展開。神奈川県立音楽堂のレジデンスとしての斬新な公演は話題を呼んだ。スウェーデン・マルメ市立歌劇場の客演コンサートマスターとしても定期的に招かれている。04年に国際交流基金等の助成を受けニュージーランド・ツアーを行う。その後もバンコク、北京、ヨククジャカルタ、ブンバエン、インドなど各地の音楽祭等に招かれ、いずれも大絶賛を博している。

著名な作曲家たちからの信頼がとても厚く、多くの作品の初演に指名を受けている。これまでに6枚のCDを発売。2013年には夫であるピアニスト若林顕とのデュオによる「ブルームス：ヴァイオリン・ソナタ全集」(キングインターナショナル)を、14年6月には、若林顕とのデュオで「シューベルティアーナ」(オクタヴィアレコード)を発売。

08-09年・14年横浜にて、10年掛川にて、音楽とアートがジャンルを超えて交わる「ビヨンド・ザ・ボーダー音楽祭」を自らプロデュース。クラシック、雅楽、美術等がボーダーレスに一体となる斬新な内容が各界で評価されている。

◆公式サイト <http://riekosuzuki.com/>



## 鈴木理恵子プロデュース 室内楽シリーズ Vol.1

### ヴァイオリン珠玉の名曲集

12/14(日)

開演 15時 (開場 14時)

鈴木 理恵子 (Vn)

若林 顕 (Pf)

全席指定

一般  
3,000円  
ペアチケット  
5,000円(2枚)

9月25日(木)14時より発売

発売日:9月25日(木)14時～  
さくらプラザ電話予約  
9月26日(金)9時～  
さくらプラザ窓口及びローソンチケット販売



©Wataru Nishida

### 次回予告

鈴木理恵子プロデュース  
室内楽シリーズvol.2  
2015年2月15日(日)  
～ピアノトリオ～  
鈴木 理恵子(Vn)  
上村 昇(Vc)  
若林 顕(Pf)

※詳細は決定次第  
HPやチラシにて  
公開いたします。



# 水永牧子

みずなが  
まきこ

チ  
エ  
ン  
バ  
ロ  
の  
音  
色  
に  
魅  
せ  
ら  
れ  
て



さくらプラザで2回目となるチェンバロ・リサイタル。本公演では、その高い技術と表現力を持ち、チェンバリストとして精力的に活躍する水永牧子さんが登場します。チェンバロへの真摯な思いや、曲に対する深い探究心、そして今回のプログラムまでさまざまなお話をうかがいました。

— チェンバロとの出会いはどのようなものだったのでしょうか？

チェンバロとの出会いは15歳頃になります。それまでずっとピアノは習っていたのですが、古い音楽にどんどん惹かれて……その中でも特にバッハが好きだということに気がついたのです。それで「私はバッハに専念していきたい」ということを先生や親に伝えたところ、チェンバロを勧められました。そこで初めて知ったのですが、バッハはピアノのためではなく、チェンバロのために曲を書いていました。

そして、チェンバロ教室（故・鍋島元子主宰）の門を叩いて習い始めました。

— 最初にチェンバロに触れた時はいかがでしたか？

やっぱり……感動的でしたね。ピアノで弾いていたフランス組曲をチェンバロで弾いたのですが、ピアノの響きと全く違いました。もちろん楽器の大きさも違いますし、鍵盤は軽い。「これはなんだろう」と思いました。ただ

「私はピアノよりもチェンバロの音色の方が好き」ということは、それはもう、最初から明らかでした。

— 初めから惹かれるものがあったのですね。

そうですね。チェンバロに出会う前、私は音量の大きな楽器に惹かれるのではなく、音量は小さくても自分の心にすっと入ってくるような、内向的な楽器が好きだということを感じていたので、チェンバロはぴったりでした。

— そこがチェンバロの魅力でもありますね。

そう思います。音量はそんなに大きくないですけれども、典雅な響きがしたり、さわやかだったり、それから心にしみてくるような……そんな音色も魅力的だと思っています。バロック音楽も好きだということはわかっていたので、その時代の鍵盤楽器もやはり自分は好きだということに気がつきました。

— バロック音楽とは、どんな音楽なのでしょう？

バロック音楽は舞曲が多かったり、情景描写をした音楽が多かったり、その後の時代とは描いている音楽が違います。後に生まれた、例えばロマン派や古典派の音楽は、自分の感情や内面を吐露するような音楽がだんだんと増えてきますが、やはり私にはバロック音楽が合っているのだと思います。国にもありますが、例えばフランスのバロック音楽だと人物や動物の描写をしていました。それからルネサンスでは、例えば「バグパイプとドローン～『戦い』より」（W.バード／本公演でも演奏予定）はある意味、戦争の情景描写です。太鼓をどんどん叩いているような音が激しく鳴っていたり……そういう情景をチェンバロで表現しています。

— なるほど。水永さんがお持ちのチェンバロは、どのようにして選ばれたのですか？

私のチェンバロはオーダーメイドで、完成まで3年ほどかかりました。まずは自分の演奏を製作家に直接聴いていただいて、それから「こういう楽器を作ってほしい」という要望を伝えて作ってもらった楽器です。チェンバロは製作家が1台1台手作業で作りますから、好みによってももちろん変わってきます。どんなタイプのチェンバロを選ぶか、それから何色に仕上げたいか、どんな装飾をつけるのか、脚は猫脚にするのか……当時の貴族がひとつの中の装飾家具としても楽しんでいたので、王宮趣味も反映されています。

— 最初にご自分のチェンバロを弾いた時は、どんな感触でしたか？

「ああ、すばらしい楽器だな」と思いました。ドイツに留学していた音楽大学にK.ヒル(Keith Hill)が作ったチェンバロがあったので、ずっとレッスンで使っていました。実はK.ヒルの弟が私のチェンバロの先生で、いかにこの楽器がすばらしいかということも先生が教えてくれて、それでは非とも同じ方に製作をお願いしたいと思っていました。

— それから10年間、弾き続けてきた中で変化はありましたか？

ありましたね。最初に来た時は、楽器が壊れている感じがしました。「この楽器はどうしたら收拾がつくのだろう」という……音が散っているような感じがあったのですが、弾き込んでいくうちに、だん

だんと意思が通じるようになってきました。少し弾けば反応してくれる、そういう楽器に仕上がってきました。やはり楽器というのは気持ちが通じるものですね。

— 水永さんとチェンバロが呼応しているのですね。

はい。ある意味、弦楽器として木の鳴りが良くなっています。例えばヴァイオリンも年数が経つほどいい音ができますよね。それと似ていて、チェンバロも木の鳴りが良くなっています。チェンバロは爪で弦をはじいて音が出ているのですが、その爪を最初はある程度、強くしていましたが、だんだんと軽い爪でも充分鳴るようになりました。軽い爪で楽器がたくさん鳴ってくれるということは、演奏者の労力が少なくなってくるので、楽器に気持ちを委ねられる部分が大きくなっています。ただ、やはり楽器を鳴らすテクニックは必要です。いかに楽器から音を引き出してあげられるかという……強く弾いたからといって大きな音ができるという楽器ではないので、だからこそ力を音を出すのではなく楽器の力を最大限に引き出し、いい音を鳴らしたいという思いは常にあります。

— 楽器との信頼関係があるからこそ、為せる事ですね。ところで最近、水永さんはチェンバロ教室を始めたそうですが、演奏家として弾いている時と教える時とではどんな違いがありますか？

自分が演奏する時は、やはり自分自身と向き合っている部分が多いですし、作曲家の意図しているものをひたすら追求することが多いですけれど、教える段階にならそれを一度かみ砕いて生





徒さんと一緒に考える時間にしてみたり、あるいはその生徒さんが持っているものを引き出してあげるようにしています。それぞれの個性ももちろんありますし、皆さんこだわりを持って練習していく、私もとても面白いです。

—お互いに良い影響があるんですね。先日、発売されたCDのテーマが「親子で聴けるチェンバロ」と伺いましたが、お子さんとの時間の中ではどんな影響がありましたか？

私はもう本当にチェンバロが大好きでこの20年間ずっと弾いてきましたが、自分の好きなものだけを追求してきました。

チェンバロの楽しみのひとつでもあるのですが、知られざる作曲家を掘り起こして、新しいいい曲を発見して、世の中に出していくことがあります。けれど、そればかりやっているとチェンバロの音楽はちょっと難しいという印象を与えてしまうと思います。そういうことを自分は好きだからやってきたのですが、子どもを産んでからは、少し意識が変わりました。子どもに「うちのお母さんは難しいことやってるなあ」と思われたくない（笑）。「お母さんは楽しいことをやっている」と思って欲

しいというのもあって、クラシック音楽の楽しさをわかりやすく伝えたいと考えるようになりました。ある意味、原点に返ることができました。

—お子さんと一緒に音楽を楽しんでいらっしゃるのですね。

そうですね。子どもはチェンバロの前に座って一緒に弾いたりすると、好きな曲は体を揺すったりとか、弾く真似をして、「きらきら星」は手の振り付けをつけて踊っています（笑）。こうやって音楽に慣れ親しんでいくという光景を毎日、目の当たりにしています。そして、自分の子どもを通して、お客様に演奏する時もいい曲ということが伝わりやすい曲を選んで演奏したいと思っています。

—今回のプログラムについてはいかがでしょうか？

ひとつのポイントはわかりやすいクラシックをお届けしたいと思っています。例えば『カヴァティーナ』はギターでよく演奏される曲です。映画『ディアハンター』の主題曲にもなっている有名な曲で、これも本当にいい曲です。

リョベートの3つの小品（『聖母の御子、羊飼いの娘、糸を紡ぐ娘』）はカタロニア民謡をギター用に

編曲したものです。チェンバロの曲というのは基本的に、宮廷で演奏されていた貴族のための音楽なので気取っていたり、舞曲は形式が決まっていたりするのがありますが、ギターの曲はもう少し庶民的な音楽で親しみやすいので、それを取り入れてみたいと思っています。モーツアルト『きらきら星変奏曲』は、小さなお子さんも知っている有名な曲なのでぜひ演奏したいです。これはピアノで演奏することが多いですが、チェンバロでも十分演奏できますし、モーツアルト自身もチェンバロで演奏していたと思うので是非ともこれは弾きたいです。最初はかわいらしい「きらきら星」なんですが、だんだん難しくなっていって最後は激しく変化するという技巧的な大曲です。

また、スウェーリングとバードはルネサンスの曲です。16世紀のオランダとイギリスの作曲家なのですが、まだ調性（※）が確立していない時代の音楽なので、少し不思議な感じがありますね。

—とてもバラエティー豊かな選曲ですね。

今回はいろいろな曲をお届けしたいなと思います。チェンバロってかわいい音が出るんですよ。それは是非とも聞いてほしいです。

軽やかだし、情熱的な時もあるし、かっこいい音も出せるし、柔らかい音も出せるし。見た目はピアノに似ているのに全然違う。初めて聞くという方も多いと思うので、チェンバロをもっと知ってほしいと思っています。きっと背景などを知れば知るほど、みなさん身近に感じてくださるのではないかと思うか。

—それでは最後に戸塚の皆様にメッセージをお願いします。

チェンバロはヨーロッパでピアノが出てくる前に、大変流行っていた鍵盤楽器です。音量は大きくなりますが、典雅な音がしたり情熱的な音が出来たり、かわいらしい音が出せたり、とても魅力的な楽器です。ルネサンスの小品から始まって、ギターの名曲、それからバッハの美しい旋律を集めたプログラムで演奏しますので、是非みなさん聞きにいらして下さい。お会いできるのを楽しみにしています。

—本日は貴重なお話、ありがとうございました。

（聞き手：佐々木愛理）

※ 調性：17世紀頃に確立した西洋近代音楽の長・短二種の調からなる和声的な調体系。



水永 牧子（チェンバロ）  
Makiko MIZUNAGA, Cembalo

桐朋学園大学古楽器科卒業。フライブルク音楽大学大学院を最優秀の成績にて修了、同校では初めてドイツ国家チェンバロ・ソリストディプロマを取得。留学中はグハイドゥリーナのプロジェクトに参加や、M.アンドレと共に演奏など、欧州各地で演奏。99年モントリオール国際チェンバロコンクール第2位、M.コネヴィルの現代作品にて最優秀賞も受賞。

01年東京リサイタル・デビュー以後、日本フィルと共に東京オペラシティ「B→C」、北九州国際音楽祭に出演するなどソリストとして活躍中。CDは02年「D.スカルラッティ・ソナタ集」（アントレ）、03年「夢見る雨」・06年「イングリッシュ・ガーデン」（ピクター）、11年「イングランド麗し～吟遊詩人の歌と変奏曲」（浜松市楽器博物館）をリリース。また14年5月に新CD「チェンバロおもちゃ箱」（日本アコースティックレコード）をリリース。

古楽アンサンブル「ラ・フォンテーヌ」のメンバーとして第11回古楽コンクール（山梨）最高位。00年ブルージュ国際古楽コンクール第2位・聴衆賞受賞。4枚のCDを発売、ロンドンSBC音楽祭、ヨーク古楽祭等に出演。また磯絵里子（ヴァイオリン）、水谷川優子（チェロ）とチェンバロ三重奏「アクリ・トリニティ」を07年に結成。10年にCD「アクリ・トリニティ／水の薫り」をリリース（ソニー・ミュージックダイレクト）。01年度文化庁在外研修員。チェンバロを故・鍋島元子、R.ヒル、M.ベーリングガーに師事。

◆オフィシャルブログ  
<http://makikos-diary.blogspot.jp/>

午後の名曲散歩 Vol.2～チェンバロで紡ぐ物語～  
10/22(水) 14:00開演(13:30開場) 全席指定:2,000円

J.P.スウェーリング：まぬけなシモン  
W.バード：バグバイとドローン～「戦い」より  
S.マイヤーズ：カヴァティーナ  
M.リョベート：聖母の御子、羊飼いの娘、糸を紡ぐ娘  
W.A.モーツアルト：きらきら星変奏曲K.265  
A.スカルラッティ：トッカータ「ラ・フォリア」ほか  
※曲目順は予告なく変更となる場合がございます。

好評発売中!  
Vol.1～Vol.3  
セット券(5,000円)  
も発売中!  
(※9/17まで)

# 戸塚区民文化センター さくらプラザ

2013年8月31日開館

柿落とし興行「狂言で寿ぐ～三番三～」  
茂山千五郎家



同時開催(8/31～9/2) 能・狂言面展(龍樹会)

9月

1日 開館記念式典  
～4名のピアニストによる開館記念式典 演奏会～

三浦 友理枝／安田 英主／菊地 美涼／安部 まりあ

15日 開館記念ピアノリサイタル“さくらの祭典”  
清塚 信也

29日 開館記念プレミアム  
ベルリンフィルハーモニー木管五重奏団



30日 ブランチコンサート Vol.1  
安田 英主(Pf)

10月

26日 黄金バッハ Vol.1  
堤 剛 無伴奏チェロ・リサイタル

28日 ブランチコンサート Vol.2  
三浦 友理枝(Pf)

## 1年があゆみ(2013.8月～2014.3月)

11月

24日 黄金バッハ Vol.2  
ジャン=ギアン・カラス 無伴奏チェロ・リサイタル



25日 ブランチコンサート Vol.3  
坂巻 貴彦(Pf)／村上 祥子(Vn)／松本 亜優(Vc)

12月

8日 若林 順 ピアノリサイタル



2014年1月

25日 新春さくらプラザ寄席 ～泣く落語 其の壱～  
三遊亭 歌之介／橋家 文左衛門／柳家 小せん

27日 ブランチコンサート vol.4  
横坂 源(Vc)

2月

5日～10日 2月のさくらにJAZZが咲く@SAKURA PLAZA  
魅惑のJAZZレコードジャケット展  
アートマネジメント講座

アフタヌーンJAZZ LIVE (9日)  
赤坂 由香利(Pf&Vo)／菅谷 正宣(B)  
横濱JAZZオールスターズライブ(10日)  
向井 滋春(Tb)／井上 淑彦(Ts)／板橋 文夫(Pf)  
古野 光昭(B)／守 新治(Ds)

22日

ガールズミュージック大会  
AQUAMARINE 他全8組



24日

ブランチコンサート Vol.5  
佐藤 俊介(Vn)

3月

2H 黄金バッハ Vol.3  
石川 滋 無伴奏コントラバス・リサイタル

17日

ブランチコンサート Vol.6  
～赤ちゃんとママのブランチコンサート～  
三浦 友理枝(Pf)／遠藤 真理(Vc)

30H

ファミリーコンサート  
～KIDSのためのクラシックコンサート～  
奥村 愛(Vn)／前田 尚徳(Vn)  
山田 那央(Vla)／奥村 景(Vc)  
小柳 美奈子(Pf)



戸塚区民文化センター「さくらプラザ」  
開館1周年を迎えて

戸塚区長 田雑 由紀乃

戸塚区民文化センター「さくらプラザ」  
の開館1周年を皆様方とともに迎えるこ  
とができまして、大変、嬉しく思います。ご  
尽力をいただきました関係各位の皆様  
方、本当にありがとうございます。

「さくらプラザ」では、平成25年度だけ  
で約78,000人のお客様のご来場があり、  
ホールやギャラリーにおいて様々な分野  
の文化・芸術を楽しんでいただきました。

日本を代表するアーティストによる珠  
玉の催し、実力派アーティストの演奏によ  
る少し贅沢な幸せを感じさせてくれるブ  
ランチコンサートなどが開催され、区民  
の皆様からもとても好評で、素晴らしいス  
タートが切れたと思います。

文化芸術は、人生に潤いや感動を与え、  
街を活性化し、豊かにしてくれます。これ  
からも、この「さくらプラザ」から素敵な音  
楽や芸術を発信し、戸塚の魅力アップの  
拠点となることを確信しています。

今後とも、「さくらプラザ」にお越しいた  
だき、楽しく、幸せで、素晴らしいひと時を  
お過ごしいただきますことを願い、私から  
のごあいさつとさせていただきます。

# さくらプラザ 下半期ラインナップ

山形由美 荘村清志  
フルート&ギター 珠玉の名曲集

9/27(土)15:00 全席指定 3,500円

イギリス民謡:  
グリーンスリーブスによる変奏曲  
瀧原太郎:花  
タレルガ:アルペジオの想い出  
ラカジョ:アマボーラ  
ピアソラ:リベルタンゴ  
ほか



完売御礼

ヴァイオリニスト前橋汀子による  
初のカルテット。世界初披露。  
前橋汀子プロデュース  
弦楽四重奏を聴いてみませんか

11/8(土) 15:00 全席指定 3,500円

出演:前橋汀子(Vn)/久保田巧(Vn)  
川本嘉子(Vla)/原田慎夫(Vc)

ベートーヴェン:  
弦楽四重奏曲第4番ハ短調 op.18-4  
弦楽四重奏曲第8番 ホ短調 op.59-2  
「ラスマフスキード」  
弦楽四重奏曲第16番ヘ長調 op.135



好評  
発売中

平日の昼下がり、実力派アーティストによる  
14時からのコンサートシリーズ  
「午後の名曲散歩」シリーズ

Vol.1 水谷川優子

～こころで感じるチェロの響き～

9/17(水) 14:00

出演:水谷川優子(Vc), 黒田亜樹(Pf)

サン=サンス:白鳥  
ベートーヴェン:管弦楽曲「魔笛」の  
娘のかかの主題による  
12の変奏曲...ヘ長調 Op.66  
ラフマニノフ:ヴォカリーズOp.34-14  
A.ビアンソ:グラントゥゴ, リベルタゴ ほか



Vol.2 水永牧子  
～チェンバロで紡ぐ物語～

10/22(水) 14:00

J.P.スコットリック:まぬけなしシモン  
W.バード:ハグハイドードローン～「戦い」より  
S.マイヤーズ:カヴァディーナ  
M.U.ベート:聖母の歌子, 羊飼いの娘, 糸を紡ぐ娘  
W.A.モーツарт:きらきら星変奏曲K.265  
A.スカルラッティ:トッカータ「ラ・フォリア」 ほか



Vol.3 西江辰郎

～洗練された感性・情熱のヴァイオリン～

11/26(水) 14:00

出演:西江辰郎(Vn), 菊地裕介(Pf)  
ハンデル:ソナタ Op.1 No.3  
トクリーダ:ヴァイオリン・ソナタ第2番  
Op.82/ソナタ・エスパニヨーラ



クライスラー:シンコペーション  
ファリ:ホーダ  
グラズ:瞑想曲  
ファリ:スイング舞曲

ほか

各公演とも全席指定 2,000円/3公演セット券 5,000円

\*来年春「午後の名曲散歩」シリーズの予定

Vol.4/27 沢川洋(Pf), Vol.5 7/22 渡辺克也(Opb), Vol.6 9/16 彦坂寅一郎(Sax)

金曜夜8時、ベートーベンのピアノに酔いしれる—  
「20時のクラシック」シリーズ

若林顕セルフプロデュース  
「ベートーベンピアノ・ソナタ全32曲」

Vol.3 9/19(金) 20:00

ベートーベン:  
ピアノ・ソナタ第4番Op.7  
ラフマニノフ:ソレーリの主題による  
変奏曲Op.42

Vol.4 11/14(金) 20:00

ベートーベン:  
ピアノ・ソナタ第5番Op.10-1  
ピアノ・ソナタ第6番Op.10-2  
ラフマニノフ:練習曲「音の絵」Op.33全曲

Vol.5 1/23(金) 20:00

ベートーベン:  
ピアノ・ソナタ第7番Op.10-3  
ショパン:ピアノ・ソナタ第3番Op.58

各回全席指定 2,000円/ローソンチケット割 1,500円  
4公演セット6,000円

ヴァイオリニスト鈴木理恵子による室内楽シリーズ  
鈴木理恵子 室内楽シリーズ

Vol.1「ヴァイオリン珠玉の名曲集」

12/14(日) 15:00 9/25(木)14:00～発売開始

出演:鈴木理恵子(Vn)/若林顕(Pf)  
エルガー:愛の旋律  
モーツارت:ヴァイオリンソナタ第28番小短調KV304  
ベートーベン:ヴァイオリンソナタ第9番イ長調Op.47「クロイツェル」ほか

Vol.2 ピアノトリオ

2/15(日) 15:00 11/20(木)14:00～発売開始

出演:鈴木理恵子(Vn)/上村昇(Vc)/若林顕(Pf)  
メンデルスゾン:ピアノ三重奏曲第1番 ほか予定  
両公演ともに、全席指定 3,000円/ペアチケット 5,000円

世界で活躍する若手アーティストが贈る…  
45分間の優雅なひととき

「プランチコンサート」シリーズ

Vol.10「夢へとつづく晩秋の道」

12/1(月) 11:30

出演:北村朋幹(Pf)  
ベートーベン:ピアノ・ソナタ第24番嬰ヘ長調Op.78「テレーゼ」  
ショーマン:8つのワルツエレッテンより第8曲Op.21-8  
ブルームス:幻想曲Op.116

Vol.11「松田弦のギターで聴く  
新春バッハ」

1/8(木) 11:30

出演:J. S. バッハ:「ヴァイオリン・ソナタ第3番より」  
ナボレオン:コスク・葬送行進曲とロンド Op.43  
ピアソラ:「エクスアインス」の夏  
アルペニス:マラゲーニャ ほか

Vol.12「トランペットとピアノで巡る、  
ロシア音楽・ロマン派の旅」

2/9(月) 11:30

出演:菊本和昭(Tp)&佐竹裕介(Pf)

3公演セット券10/2(木)14:00～発売開始

各公演単独券10/9(木)14:00～発売開始

Vol.10～12共通:全席指定1,000円/ Vol.10～12セット券2,500円

出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

好評  
発売中

## 調律師

発表会の前に行われているピアノの調律ですが、実際にどんなことをされているのか、株式会社ヤマハミュージック横浜店ピアノフルテ上大岡の大谷光司さんに実際にお越しいただき、お話を伺いました。

(聞き手:黒澤翔)



### 調律

リハーサル室のセミコンサートピアノ(YAMAHA/S6B)を実際に調律してもらいました!!

大谷:発表会やイベントの調律では、まず催事の内容を参考にして、ホールの響きにあったピアノの置き場所を決めます。この時、空調や照明も大切な要素になります。次に全鍵盤を弾き、音の鳴り方や止まり方など、そのピアノにとって必要な作業工程が、時間内で完了するよう組立てます。

ホールの鳴り方やコンディションに合わせてスケジュールを組むことが大切なんですね。では、調律とは実際にどのような事をされているのか、見せてください!

大谷:一般にいうピアノ調律とは、大きく分けて①音を合わせる“調律”②弾き心地(タッチ)を整える“整調”③音量や音色を整える“整音”的3つの要素から成っています(※②、③は必要に応じて行います。)

### 調律

調律指定されたピッチ(基準の音)を合せてから1オクターブの音律を作り、それを全体(88鍵盤)に広げていきます。

一つの音につき、1～3本の弦で音が鳴るので、フェルトをはさんで余計な音が出ないようにし、専用道具を使って、チューニングピンを回します。右回り→弦を締める。左回り→弦を緩める。基準の音を決めから、88鍵盤を繰り返し繰り返し調整を行います。

### 整調

「ハンマー」と呼ばれる弦をたたく部分の上がり具合を見ます。これを調節すると、音の立ち上がりがよくなったり、連打した時に音がよく出るようになります。

### 整音

ハンマーが弦に的確に当たるようにします。ずれてしまうと、こもった音になります。

大谷:これらの作業に約2時間が必要になります。(ピアノを鳴らし)『トーン♪』どうでしょうか。いい音になったでしょう?

～おー!!音の鳴り方が全然違いますね。

大谷さん。ありがとうございました。

## 戸塚の浮世絵に描かれた場所へ 実際に行ってきました！編

こんにちは。今回は、歌川広重の「東海道五十三次 戸塚」を取り上げます。描かれた場所は現在どうなっているのかを調べてきました！

当時、人々は日本橋から京都までを約2週間かけて旅をしたそうです。その道中にある宿場町の風景を題材として1833年ごろに制作されたのがこの保美堂版「東海道五十三次」です。戸塚宿は、江戸から一日行程で辿りつける距離にあったため、かつて宿場町として大変栄えました。

絵をご覧ください。左側に「こめや」と旧かな文字で書かれた看板が掛かっています。「こめや」は米の商いのほかに、旅人に軽食を提供する茶屋の役割も果たしていたそうです。絵の中央の石灯籠の脇には、「左かまくら道」と書かれた道標があり、さらに右側には橋が架かっています。この橋は当時の大橋(現在の通称:吉田大橋)です。



2014年 現在

ほぼ同じ構図の大正時代に撮影された写真が残っています。まだ広重の浮世絵のころの面影が色濃く残っているのがわかります。架空の世界を描いている訳ではないとはわかっていても、実際に写真目にするときの景色は本当にあったのだと改めて感じることができました。

では、現在この風景はどうになっているのでしょうか。実際にに行ってきました。

これが今の風景です。同じアングルから撮影しましたが、200年近く経った今、やはり昔の面影はあまり残っていません。割と車の交通量が多く(車が映らないように撮影しました)、ブンブンと車が通っています。当時も馬に乗った人や笠を被った旅人のよう、絵に描かれているような人々が絶えず行きかっていました。いずれにせよ、当時も今と同じように、交通の要所として賑わっていたのだろうと思います。



大名行列のイメージ

『東海道神奈川横浜風景』横浜市歴史博物館所蔵

それと大橋の電燈のデザインがレトロでかっこよく印象的でした。これは大名行列の槍持ちが持つ「毛槍」というものをイメージして作られたそうです。渋いですね～。当時の人々を思い、私は大橋から柏尾川の景色を望み、一時間ほど感慨にふけっていました。

ふと(なぜ広重は、あの構図で戸塚を描こうと思ったのか…?)という一つの疑問が浮かびました。ここからは私の想像です。鎌倉散策が江戸時代中期から庶民の間に浸透しつつあったこともあり、「左かまくら道」という道標を描くことで、観光案内のような意味合いを含んでいたのではないかでしょうか?ちょうど戸塚の玄関口であり、宿場の外であるにも関わらず描かれた訳もそう考えれば納得がいく気もします。あくまで私の勝手な想像ですが、皆さまはどう思いますか?

もし真相を存じの方がいらっしゃいましたら、こっそり教えてください(笑)私と違う想像をお持ちの方も大歓迎です。さくらプラザでお待ちしています! 最後まで読んでいただきありがとうございました。

前回の原稿で、「今年は冷夏になるかもしない」と言うけれどどうなのでしょ  
う。本当かしらね」という意の事を申し上げましたけれど、やはり蓋を開けてみたら猛暑のようですね。いかがお過ごしでしょうか。お身体お大事になさってくださいませ。

かの昭和の爆笑王と云われた斎家の決め台詞に、「カラダ大事にしてください」というのがありました。これは、親切心とか気遣い、サービス精神の現れだと受け取ることもできます。しかし「お元氣でないと足を運んで見に来てくれるやつを打撃を受ける」という、芸人の正直な利己的な願いだと捉える説もあります。

いずれにしても元気でいいものです。病のひとつひとつ抱えているということは、このご時世では仕方がないことですが、気持ちが元気でないと、どうなれば(我々の商売的には)笑うことでも、笑わせることがままなりませんから。

私事ですが、このコーナーでは、たいがいワタクシゴトばかりもうしあげておりますが、先日、腰を痛めまして……。もとより、肩こり腰痛持ちで整体やマッサージにお世話になっているのですけれど、今はちょっと厳しかったのです。ちょうどした荷物を持ち上げた途端にピリッと違和感、おやおやと思うていて、その日のうちにじわじわとこじれてしまつて、翌日には寝起きも、いや寝ていてだけでも辛い状態に。

整骨院にもかかり、薬を飲んだり貼ったりして、二週間ほどであらかた良くなつたのですが(今ではすっかり通常に戻つております)、ご心配なく、当初の数日、ひどい時はたいへんでした。寝ても立つても、座つてもしんどくて、重ねて夏風邪気味で、コホツと咳き込むと腰に響くという状態。そんな時でも仕事をいただいていたら出かけて行く訳で、高座では入つているためでしょ  
うか、咳き込むこともなく腰の痛みも感じないので、が、一席終わつて立ち上がるのにかなり苦労をした時もありました。

そのうちには、背中で物語る戸塚見返親仁

トツカミカエリオヤジ

其之七の後ろ姿は…  
創業50周年 大竹屋の  
大竹寛さんでした!  
戸塚にちなんでお菓子をたくさん取り揃えています。

其之八

商店の主人など、  
戸塚区内で働いているオヤジ世代の後ろ姿から、  
何処の何方だろうかと想像してみるコーナーです。  
次号では、見返りポーズで、お顔を公開します。

（柳家小せん・戸塚出身 落語家）

顔見世



# さくらプラザ

自主事業公演スケジュール

9月  
September

9/17 14:00  
午後の名曲散歩 Vol.1  
ここで感じるチェロの響き  
水谷川優子(Vc)  
黒田亜樹(Pf)

9/19 20:00  
若林頭 ベートーヴェン  
ピアノ・ソナタ全32曲 第3回  
ベートーヴェン:  
ピアノ・ソナタ第4番Op.7  
ラフマニノフ:  
コルリの主題による変奏曲Op.42

9/27 15:00  
フルート&ギター  
珠玉の名曲集  
山形由美(Fl)  
莊村清志(Gt)

10月  
October

10/22 14:00  
午後の名曲散歩 Vol.2  
チェンバロで紡ぐ物語  
水永牧子(Cemb)

J.P.スウェーリング:まぬけなシモン  
W.バード:バグパイプとドローン  
~「戦い」より  
S.マイヤー:カヴァティーナ  
M.リヨベート:聖母の御子、羊飼いの娘、  
糸を紡ぐ娘  
W.A.モーツアルト:きらきら星変奏曲K.265  
A.スカルラッティ:ツッカータ "ラ・フォリア"



11月  
November

11/8 15:00  
前橋汀子プロデュースVol.2  
弦楽四重奏を聴いてみませんか  
前橋汀子(Vn) 久保田巧(Vn)  
川本嘉子(Vla) 原田禎夫(Vc)

11/14 20:00  
若林頭 ベートーヴェン  
ピアノ・ソナタ全32曲 第4回  
ベートーヴェン:  
ピアノ・ソナタ第5番Op.10-1  
ピアノ・ソナタ第6番Op.10-2  
ラフマニノフ:練習曲「音の絵」

11/26 14:00  
午後の名曲散歩 Vol.3  
洗練された感性、  
情熱のヴァイオリン  
前江辰郎(Vn) 菊地裕介(Pf)  
Op.33 全曲

Coming soon!!

- 12/1 ブランチコンサートVol.10 夢へとづく晩秋の道 北村朋幹(Pf)  
 12/14 鈴木理恵子プロデュース室内楽シリーズVol.1 珠玉のヴァイオリン名曲集 鈴木理恵子(Vn)、若林頭(Pf)
- 
- 2015年
- 1/8 ブランチコンサートVol.11 松田弦のギターで聴く新春バッハ  
 1/23 若林頭 ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲 第5回
- ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第7番Op.10-3  
 ショパン:ピアノ・ソナタ第3番Op.58
- 1/24 新春さくらプラザ寄席～泣く落語 其の式～  
 2/9 ブランチコンサートVol.12 トランペットとピアノで巡る、ロシア音楽・ロマン派の旅 菊本和昭(Tp)、佐竹裕介(Pf)  
 2/15 鈴木理恵子プロデュース室内楽シリーズvol.2 ピアノトリオ 鈴木理恵子(Vn)、上村昇(Vc)、若林頭(Pf)  
 3/20 若林頭 ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲 第6回
- ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」  
 ピアノ・ソナタ第9番  
 ピアノ・ソナタ第10番  
 ショパン:ノクターン第2番Op.9-2、幻想即興曲  
 リスト:ラ・カンパネラ
- ⋮

ご予約・お問合せは TEL: 045-866-2501

Vol.6



戸塚区民文化センター さくらプラザ

横浜市戸塚区民文化センター  
さくらプラザ 情報誌

2014.9.1発行

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17 FAX: 045-866-2502  
<http://www.totsuka.hall-info.jp> MAIL: event@totsuka.hall-info.jp